デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026年10月27日(火)　発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

■ 日経平均は前日比1,078.72円高の63,268.37円と4営業日ぶりに反発した。前日の米国市場でAI開発会社アンソロピックがSECに新規株式公開(IPO)の書類を提出したと伝わり、売られ続けていたAI・半導体関連に買い戻しが入った。朝方は379円高で始まり、10時15分に63,684.69円まで上げ幅を1,495円に広げた。

■ ただし上昇は一握りの値がさ株に集中した。TOPIXは24.39ポイント高の3,997.37と上げ幅は0.61%にとどまり、プライムの値下がり銘柄797はなお値上がり700を上回った。33業種のうち上昇したのは15業種で、半数に届いていない。

■ 物色は「AI・半導体の買い戻し」と「金利上昇の受益業種」の二本立てだった。上昇率上位は非鉄金属、電気機器、銀行業。一方で新発10年債利回りが2.782%へ1.2ベーシスポイント上昇したことを受け、不動産業が下落率トップとなり、医薬品・陸運も売られた。

■ 焦点は27～28日のFOMCと29～30日の日銀金融政策決定会合に移る。いずれも政策金利の据え置きが大勢の見方だが、原油が1バレル100ドル台で居座るなかでの金融政策の文言が問われる。28日にはアドバンテストの決算が控え、本日の急騰を裏づけられるかが試される。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均株価	63,268.37円	+1,078.72(+1.73%)	4日ぶり反発。始値62,569.08円
TOPIX	3,997.37	+24.39(+0.61%)	2日続伸。一時4,000台を回復
日経半導体株指数	—	+3.03%	前日までの下げに買い戻し
プライム売買代金	6兆9,360億円	+2,922億円	前日は6兆6,438億円(概算)
値上がり／値下がり	700／797	—	変わらず50。値下がりが優勢
新発10年国債利回り	2.782%	+0.012%pt	3営業日の低下が一服。先物7銭安
新発2年国債利回り	1.866%	+0.005%pt	中期債も小幅に金利上昇
新発20年国債利回り	3.581%	+0.018%pt	超長期も小幅に金利上昇
長期国債先物12月限	126円61銭	−7銭	寄付126円47銭、安値126円41銭
米10年国債利回り	4.99%	—	10月26日のNY終値。ほぼ横ばい
ドル／円	157.86円	+0.36円	27日17時。高値157.88円
ユーロ／円	176.17円	+0.17円	27日17時。レンジは31銭
NYダウ	52,361.58ドル	+146.42(+0.28%)	10月26日終値。反発
ナスダック総合	26,169.38	+214.04(+0.82%)	10月26日終値
S&P500	7,676.77	+53.09(+0.70%)	10月26日終値
SOX指数	11,083.47	+304.01(+2.82%)	10月26日終値。半導体が主導
韓国KOSPI	5,638.34	+168.87(+3.09%)	27日終値。GDP上振れ
上海総合指数	3,648.30	−49.22(−1.33%)	27日終値。引けにかけ失速
香港ハンセン指数	23,041.32	−170.49(−0.73%)	27日終値。HSBC決算が重荷
台湾加権指数	46,096.23	+54.80(+0.12%)	27日終値。小幅高で引け
WTI原油(12月限)	101.76ドル	−1.51	10月26日清算値
NY金(12月限)	4,038.4ドル	+30.5	10月26日清算値

3．株式市場

寄り付きから前場へ：買い戻しが一気に集中した

日経平均は62,569.08円(前日比379.43円高)で取引を開始したあと、9時2分に62,389.47円まで伸び悩む場面をはさみ、そこから一気に水準を上げた。10時15分の高値63,684.69円まで約1,300円を駆け上がり、前引けは1,191.64円高の63,381.29円だった。前日まで3営業日続けて下げ、この間に2,431円を失っていた反動が、米国のAI関連ニュースをきっかけに一度に出た形である。

後場は上げ幅を縮小、イベント前の持ち高調整が入る

後場は1,065円高で始まったものの、上値は重かった。FOMCと日銀会合という二つの金融政策イベントを目前にして、上げたところを売る動きが優勢となり、終値は高値から416円低い水準で着地した。プライムの売買代金は6兆9,360億円、売買高は22億4,473万株で、前日の6兆6,438億円からは増えたが、23日の8兆9,383億円には遠く及ばない。指数の上げ幅に見合うだけの資金が入ったとは言いがたい。

業種：金利上昇が物色の線引きをした

上昇は非鉄金属、電気機器、銀行業、ガラス・土石製品の順。下落率上位は不動産業、医薬品、陸運業だった。半導体関連の買い戻しが電気機器を押し上げたことは分かりやすいが、トップが非鉄金属であった点と、銀行が3番目に入った点は見落とせない。原油高が続くなかでの資源価格の底堅さと、国内金利の上昇という二つの流れが、半導体とは別の経路で株価を動かしている。不動産の下落はその裏側である。個別では寄与度上位にアドバンテスト、ソフトバンクグループ、東京エレクトロン、イビデン、TDK、ファナック、レーザーテックが並び、その多くが半導体製造装置と電子部品である。下位はリクルートHD、第一三共、中外製薬、ファーストリテイリング、ソニーG、住友不動産と、内需と医薬に偏った。

4．本日の主題：1銘柄で6割を説明できる反発

本日の日経平均の上げ幅1,078.72円のうち、アドバンテスト1銘柄の寄与が約602円、全体の55.8%を占めた。ソフトバンクグループを加えた2銘柄で約772円、71.6%に達する（いずれも筆者算出）。

一方で市場の内側は、プライムの値上がり700銘柄に対し値下がり797銘柄、33業種のうち上昇は15業種にとどまった。TOPIXの0.61%高は日経平均の1.73%高に1.12ポイント及ばない。TOPIXの終値3,997.37は10月22日の3,997.50とほぼ同水準であり、この3営業日、時価総額加重で見た日本株は実質的に動いておらず、日経平均だけが360円上がった。

乖離の意味は、値がさ半導体株の値動きが指数の見え方を支配しているという一点に尽きる。本日のアドバンテストの8.98%高は、アンソロピックのIPO申請というAI投資継続の材料に、28日の決算への期待が重なった動きであり、裏を返せば期待に届かなければ同じ経路で600円が消える。日経平均は21日の64,621.24円からなお2.09%低い。本日は下げ分を取り戻した動きではなく、下落の主役が一日だけ逆回転した動きと見るのが妥当だろう。

5．債券・金利

長期国債先物12月限は126円47銭で始まり、126円61銭で引けた。前日の126円68銭から7銭安い。新発10年債利回りは2.782%と前日の2.770%から1.2ベーシスポイント上昇し、3営業日続いた低下が止まった。2年1.866%、5年2.217%、20年3.581%で、カーブ全体が小幅に上を向いた。

株高に伴うリスク選好の戻りが重荷になったのは自然だが、上昇が1～2ベーシスポイントにとどまったことのほうが情報量は大きい。29～30日の日銀会合を前に動きにくい。この程度の金利変動でも銀行株と不動産株の綱引きには明確に効いている。米10年債は26日も4.99%とほぼ横ばいで、2年債が上昇し30年債が低下するカーブのフラット化が進んだ。

6．為替・商品

ドル円は東京時間17時時点で157円86銭。日中は157円42銭から157円88銭の46銭幅で、前日のNY終値157円50銭から36銭の円安となった。ユーロ円は176円17銭、ユーロドルは1.1160ドルでユーロに売りが出た。日銀会合を控えても円が買われない地合いである。

10月26日のWTI原油12月限は101.76ドルと1.51ドル下落、NY金12月限は4,038.4ドルと30.5ドル上昇した。原油が100ドル台に居座ること自体が本日の株高の最大の留保条件で、インフレ圧力が残ればFOMCの文言はタカ派に傾きやすい。

7．海外市場の動向

前日26日の米国市場は3指数がそろって反発した。NYダウが0.28%高、ナスダック総合が0.82%高、S&P500が0.70%高。SOX指数は304.01ポイント高の11,083.47と2.82%上昇し、上げの中心が半導体であったことを示した。インテルは4.03%高で引けた。

27日のアジアは方向が分かれた。韓国KOSPIは168.87ポイント高の5,638.34と3.09%上昇して反発。7～9月期の実質GDPが前期比1.0%増と韓国銀行の8月見通し0.3%増を大きく上回った。対して香港ハンセン指数は170.49ポイント安の23,041.32で、HSBCの7～9月期税引前利益が市場予想をわずかに下回り同社株が6%を超えて下げた。上海総合指数は49.22ポイント安の3,648.30だった。半導体比重の高い市場が上げ、本土系ハイテクと金融が重い市場が下げる線引きが出た。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10年債	売買代金
10月21日(水)	64,621.24	+545.82	4,043.73	2.882%	6.93兆円
10月22日(木)	62,907.84	−1,713.40	3,997.50	2.870%	7.06兆円
10月23日(金)	62,693.16	−214.68	3,965.81	2.789%	8.94兆円
10月26日(月)	62,189.65	−503.51	3,972.98	2.770%	6.64兆円
10月27日(火)	63,268.37	+1,078.72	3,997.37	2.782%	6.94兆円

9．総括と注目点

指数の数字は大幅反発でも、市場の内側では値下がり銘柄が値上がり銘柄を上回り、上昇業種は半数に届かなかった。TOPIXが10月22日の水準に戻っただけである点を踏まえれば、転換点と見るには早い。

- FOMCの結果発表は日本時間29日未明3時、ウォーシュFRB議長の会見は3時30分。3.75～4.00%での据え置きが大勢で、原油高を受けた物価認識の記述が焦点。
- 日銀会合は29～30日。30日に結果公表と展望レポート、15時30分から植田総裁会見。12月利上げの織り込みを強めるかで長期金利と銀行株の方向が決まる。
- 28日にアドバンテストが決算を発表。寄与602円の根拠が問われる場面で、30日は東京エレクトロン・TDK・レーザーテックと半導体決算が続く。海外は28日にアルファベットとマイクロソフト、29日にアマゾンとサムスン電子。
- 29日21時30分に米7～9月期GDPと9月のPCEデフレーター、22時15分にECB理事会。29日には国内で2年国債入札、31日には中国の10月製造業PMIが控える。

脚注：終値・売買代金は財経新聞（フィスコ配信）の日次相場概況、騰落銘柄数・業種別・寄与度は株探の大引け記事を第一出典とした。前日比・騰落率・連騰連落と寄与度比率（55.8%、2銘柄で71.6%）は筆者算出。SOXの前日比は10月23日終値10,779.46との差。

脚注：WTI原油はフィスコ配信の101.36ドルが検算に合わず、株探・OANDAで一致した101.76ドル（−1.51ドル）を採用。香港ハンセンはみんかぶが「0.73%高」と表記するが前日終値との差は−170.49で、下落が正しい。

脚注：米10年債の前日比は出典により小幅低下と横ばいに分かれ、自前で検算できる系列が得られなかったため横ばいとした。新発30年債は出典系列に収録がなく記載を見送り、安値62,389.47円は裏づけ1件のみ。売買代金は概算値。生成AIで公開情報を整理・執筆。出典＝財経新聞、株探、日本経済新聞、みんかぶ、OANDA証券、株式マーケットデータ、Investing.com、共同通信、聯合ニュース。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。